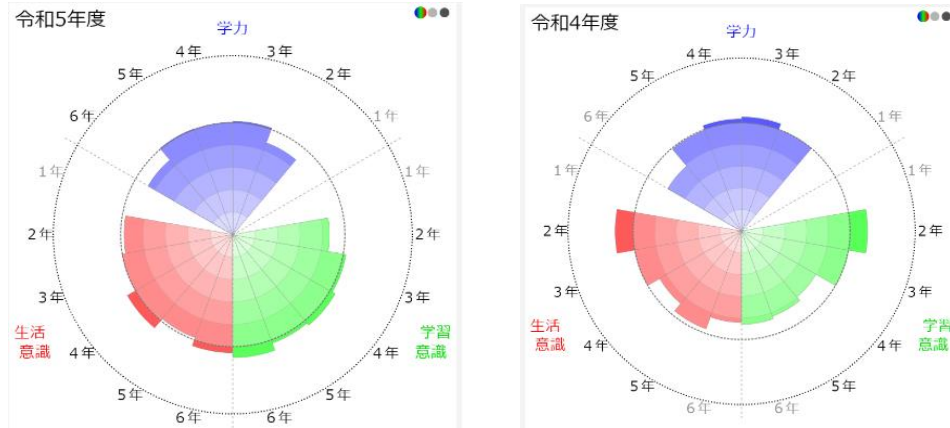


令和5年度 横浜市学力・学習状況調査 報告

年末に返却いたしました令和5年度の横浜市学力・学習状況調査の本校の状況につきまして報告いたします。この調査結果を分析し、教育活動の充実、向上に生かし、子ども達のさらなる成長につなげてまいります。



(1) 学力状況調査より

今年度は令和4年度と比較し、特に生活意識、学習意識が高まってきている。「自分の考えたことよりも、相手のほうがよい考えをもっていると思ったときは、進んで自分の考えを変えるほうが大切だと考える。」という質問に対し、どの学年も9割近くの児童が大切だと考えるという結果になった。基礎・基本的な内容の定着を大切にしつつ、自分の考えだけではなく、友達の意見や考え方を知り、そのような授業の中で児童が主体的に学習に取り組み、考える楽しさ、分かる喜びを感じられる授業づくりに努めていく。

〈教科学習の状況〉

- 国語科:ここ数年の推移を見ると、各学年において向上が見られ、市の平均とほぼ同じになってきている。説明的文章や語彙力の点で文章の読み取りを苦手とする児童が多いため、読書活動等を通して語彙力を高める支援に取り組み、普段から読み慣れていくようにしていく。
- 社会科:学習意識が、前年度より向上している。社会科を学びたいと思う児童が増えている。順を追って資料を読み取り、答えを導く力が高まってきている。しかし、地図記号やグラフの数値を基に複数の資料を関連付けて考える力が弱い傾向が見られる。複数の資料を基に分かることや考えられることを総合的に考察し、課題解決に結び付けていく授業づくりに努めていく。
- 算数科:市の平均とほぼ同じになってきている。しかし、領域によっては苦手意識が強く、正答率が低い問題もある。単純な計算はできるが、どうしてそのような式になるのか、仕組みの理解が十分でない児童が多い。低学年はおはじきや模型、デジタル教材などを活用し、具体物の操作による学習に取り組んでいく。また、高学年につれて抽象化が進むため、少人数授業やチームティーチング、児童の進度に合わせた習熟度別指導など、理解が深まる授業づくりに取り組む。そして、算数学習の楽しさを感じるに授業展開も工夫していくようにしていく。
- 理科: 実験の技能や、実験結果から考察する力が身に付いてきていて、日頃の学習の成果が表れている。学習意識に関しては、学年が上がるにつれ、市の平均を下回ってくる傾向が見られる。植物の育ちに関する学習内容の正答率が低い傾向が見られるので、自然環境への関わりを増やし、主体的に解決しようとする意欲を高めていく活動を継続していく。

(2) 生活意識調査より

生活習慣や学習習慣に関する意識調査では、どの設問に対してもほぼ市の平均と同じような割合での回答が見られた。学校では、学習意欲が高まるような授業改善や、学校生活がより充実するような取組を続けていきたい。

- 「自分にはよいところがあると思いますか」の設問に対して、ほぼすべての学年が「ある」と回答した割合が市の平均より高い。なかよしペア活動などの異学年交流や学級活動などでの他者とのかかわりの中で、自分のよさを感じる活動を引き続き大切にしたい。
- 「学校や社会のきまりを守ることは大切だと思いますか」の設問に対して、どの学年も「大切である」と回答した割合が8割、「どちらかというとそう思う」を含めると、ほぼすべての児童が大切だと考えている。これからも「学校スタンダード」を学級で確認し、みんなが気持ちよく過ごせる学校生活となるよう指導していきたい。